

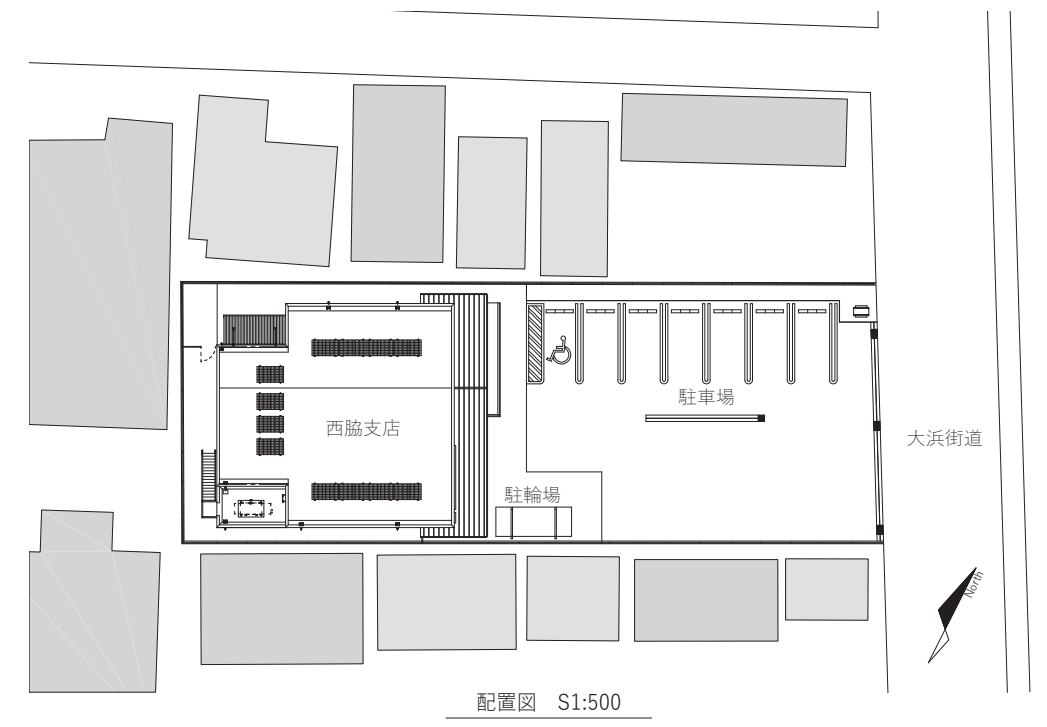
しずおか焼津信用金庫 西脇支店



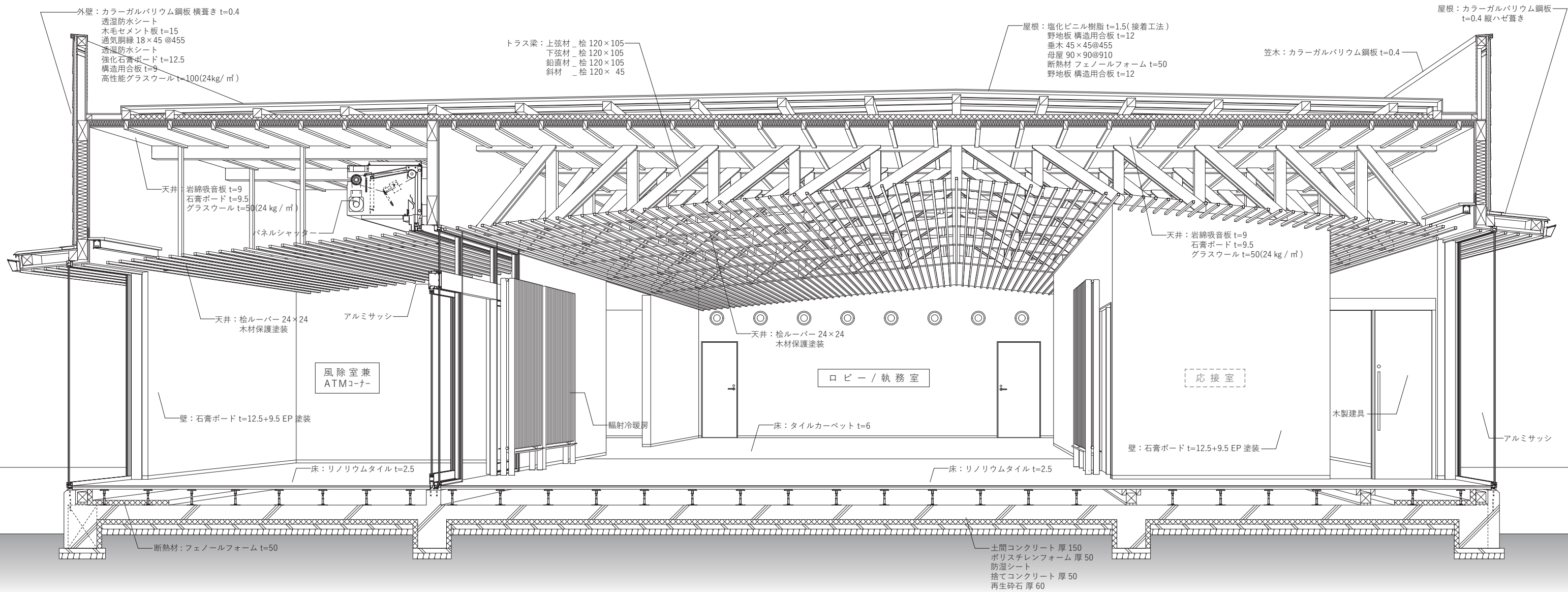
コンセプト
本設計はしずおか焼津信用金庫西脇支店の建物老朽化による建て替えである。既存店舗は軽量鉄骨造の建物であったが、環境配慮（カーボンニュートラル・森林保護）・オクシズ材活用による地域活性化・コストダウンを目的に木造での建て替えを計画した。木造で建て替えを行うことがこれらの合理的な目的を満たすだけの手段となってしまう、木造のアイデンティティを失った建物とならないよう木造の力強さ、美しさ、温もりを訪れる人に感じてもらえるような建築を目指した。

敷地は静岡市駿河区西脇に位置し東西に長い敷地形状であり、前面の大浜街道は中心市街地と大浜海岸を結び様々な小売店が軒を連ねる。個々の小売店は道路に対して狭い離隔で建物を配置しているため、大浜街道を通行する人々に賑やかさを感じさせるとともに圧迫感・煩雑さを感じさせる。新しい西脇支店は周辺の小売店とは逆に敷地奥に建物、手前に駐車場を配置することで道と建物との間にバッファを設け、道路からファサードを一望できる配置とすることで落ち着きのある佇まいとした。

建物配置



配置図 S1:500



内部空間

金融機関においてロビー・執務室は機能・防犯上の観点から無柱空間が求められる。西脇支店のロビー・執務室の間口は6間（10.920m）であり、このロングスパンをオクシズ材で架け渡すためには在来工法では構造的に不可能と判断し、トラス工法を採用した。ロビー・執務室は金融機関の要であり、その空間を支えるトラス架構を核とした内部空間を計画した。120 mm × 105 mmで構成されるトラス架構は室内に露出させ木の力強さを感じさせる存在感あるものとした。トラス架構の存在感は裏を返せば支配的であり、威圧的な空間となりかねないため、トラス下弦材の勾配なりに24 mm角の桧ルーバーを設け、木の繊細なスクリーンにトラス架構がぼんやりと浮かび上がる温もり、繊細さの中に力強さがある木の二面性を表現した。



応接室のボリュームを独立して配置することでルーバー天井の広がりを感じさせる



切妻の庇が景色を印象的に切り抜く



ルーバーとトラスが印象的な内部空間を生み出す



外装表現

道路との間に距離を持たせて建物を配置することファサードは立体的ではなく平面的な印象を感じる。ファサードは平面的でありながらも印象的なものとするために、トラス下弦材の勾配を踏襲した切妻の庇が白い建物を家型に切り抜き、外壁は手仕事を感じさせるガルバリウム鋼板横葺き仕上げとし、庇下の家型の開口部を透過性の高いアルミカーテンウォールとすることで愛らしさと内部の賑わいを感じさせるものとした。

建物に近づくにつれて切妻の庇は立体感を帯び、軒天の桧ルーバーは建物内外の連続性を生み出し訪れる人を大らかに迎え入れる。外部から内部へ収束し建物全体を覆う桧ルーバーは迫力と安心感を与える西脇支店の新たなチャームポイントとして仕上げた。



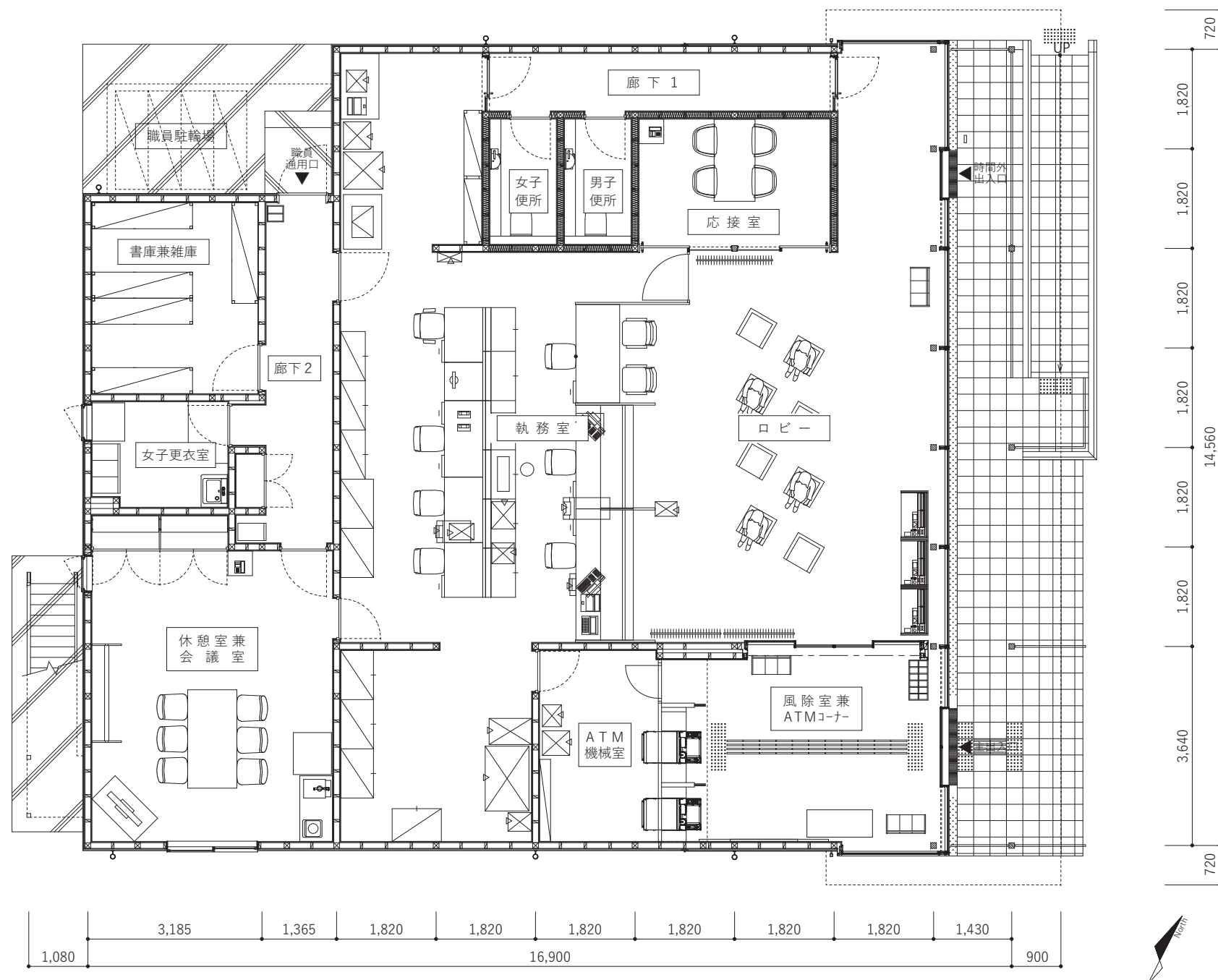
道路からは立体感が無く平面的なファサード



ルーバーの連続性が内外をつなぐ



立体感を帯びた庇が迎え入れる



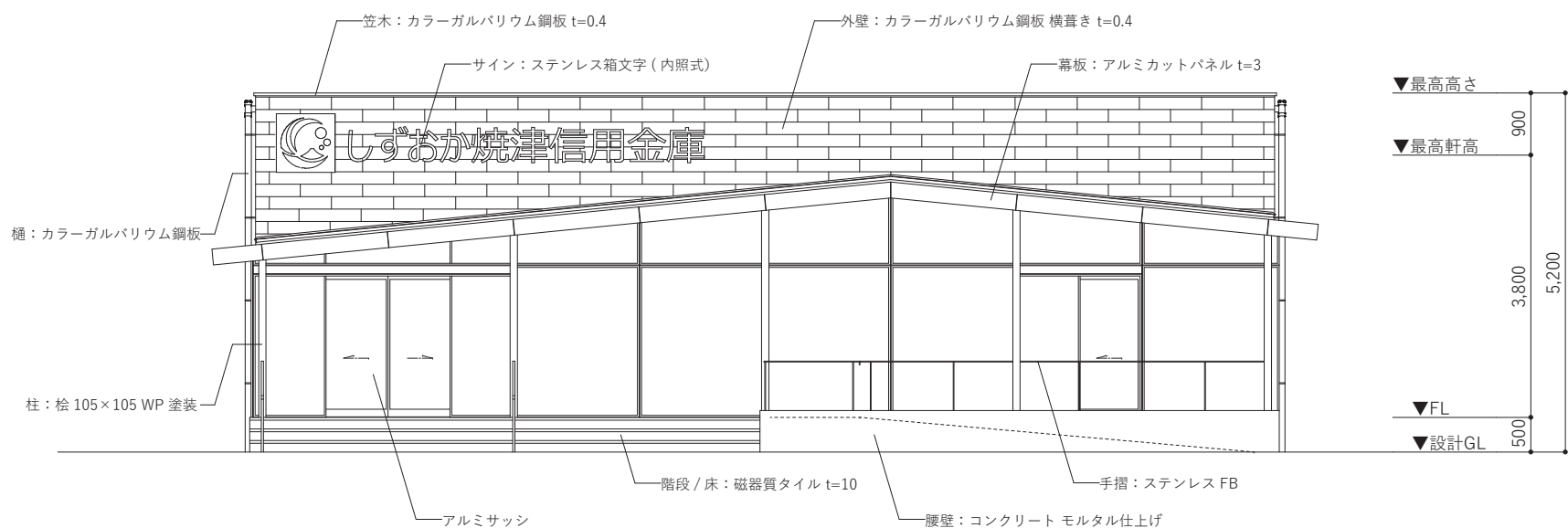
平面図 S1:100



執務室からロビーを眺める



応接室からロビーを眺める



立面図 S1:100

■建築概要

所在地：静岡県静岡市駿河区西脇
 計画区域：市街化区域
 用途地域：準工業地域
 防火地域：指定なし（法22条区域）
 主要用途：銀行の支店
 敷地面積：799.80㎡
 構造：木造（在来軸組工法＋トラス工法）
 階数：平屋建て
 工期：2024年6月～2024年12月
 建築面積：243.23㎡
 延床面積：216.93㎡
 建蔽率：30.42%
 容積率：27.13%
 最高高さ：5.200m

■外部仕上げ

屋根：塩化ビニル樹脂系シート防水（接着工法）
 庇：カラーガルバリウム鋼板縦ハゼ葺き
 外壁：カラーガルバリウム鋼板横葺き（ファサード）
 ：カラーガルバリウム鋼板スパンドレル

■内部仕上げ

[ロビー・執務室・ATMコーナー]
 天井：桧ルーバー 24×24 @130 / 岩綿吸音板
 壁：石膏ボード EP 塗装
 床：リノリウムタイル
 [応接室]
 天井：岩綿吸音板
 壁：石膏ボード EP 塗装
 床：タイルカーペット